

ヤングケアラー支援研究事業
第1回事例検討会 議事メモ

日 時 2022年3月30日 13時30分～15時10分

参加者 助言者：齊藤真緒氏（立命館大学）、中村健治氏（北海道社協）
児童家庭支援センター

栃木県	ちゅうりっぷ	片桐・定方
横浜市	みなと	福永・岩崎・工藤
福井県	めぐみ	川田
	白梅	塩野
	あわら	山本
	一陽	亀間、吉村、野尻、深尾
福岡県	SOS 子どもの村	松崎、西原
大分県	光の園	松永、蜂須、葛城
	和	山本
	ゆずりは	井手
全国児童家庭支援センター協議会		橋本

(1) 日本財団 高橋氏、長谷川氏より挨拶、参加者自己紹介

(2) 「ヤングケアラーケース一覧」について

(※一覧は実態を歪めない程度に「架空ケース」として記載)

橋本会長より、ケース一覧（全26ケース）を一瞥したところ、その原因として、保護者精神疾患15件、外国籍2件、住環境・衛生面の劣悪さ4件、多子世帯1件、知的障害2件、病気2件、不登校（本児）9件、（兄弟）4件と報告がある。この数字自体が、社会的養護をテリトリーとする児家センの活動の特徴を顕現しているとの見解が述べられる。

なお事業期間内～2023年3月までに、該当ケースに転出や増加があった場合は順次、削除、追記することとする。

(3) 事例検討会について（2022.3.30～翌年1月迄：計10回程度）

- ① 齊藤真緒立命館大学教授と中村健治北海道社協事務局長を助言者として毎回招聘。
- ② 4月に齊藤氏、5月に中村氏から“ヤングケアラー支援の入門講座”的なミニ講義（45分）を受ける。後日、事務局がミニ講義録を作成。
- ③ 事例報告者は、「ケース概要（ターゲット）」「支援・活動の状況（アクション）」「課題・成果（イシュー・ポイント）」について、各々整理してレポート（A4：2枚程度）にまとめ、事前に事務局に提出。

- ④レポートには、事例検討会において、みんなで議論したい課題点＝直面している問題、支援者としての困り感 etc＝や、共有したい好事例＝何が有効であったか等、一定の評価や分析を含む＝が明確に示されるよう努めること。
- ⑤事例検討会冒頭において、レポートを概ね 15 分でレク。その後全員討議を 40 分。後日公開が前提なのでプライバシーに配慮した発言を。
- ⑥事務局が事例検討会の開催毎に報告書（議事メモ）を作成。
 < A4：4 頁程度＝開催日時、参加者名簿、事例報告レポート、討議記録、写真等 >
- ⑦相談支援（ケース）記録については、各センターにて記載（様式は自由）し、保管のこと。
- 上記の内容を全員で確認した。

（４）次回以降の検討会の日程について

今後継続的に開催する事例検討会の日程について、毎月最終月曜日の 13 時 30 分～とすることを全員が了承する。（具体的日程は下表のとおり。）

事例検討会 開催日時	検討内容（講義・事例報告者等）	
3月30日 午後1時30分～	初顔合わせ（自己紹介／本事業の TODO&ミッションの共有）	
4月25日 午後1時30分～	斉藤先生ミニ講義	栃木
5月30日 午後1時30分～	中村先生ミニ講義	横浜
6月27日 午後1時30分～	福井	福岡
7月25日 午後1時30分～	大分	栃木
8月29日 午後1時30分～	横浜	福井
9月26日 午後1時30分～	福岡	大分
10月31日 午後1時30分～	栃木	横浜
11月28日 午後1時30分～	福井	福岡
12月10、11日	JaSPCAN 学術集会 福岡大会（公募シンポジウム）	
1月30日 午後1時30分～	大分	まとめ

※今後、やむをえず欠席する場合は必ず代理を立てることとする。

(5) 中間報告会の実施について

2022年12月10日～11日、福岡市にて開催予定の日本子ども虐待防止学会学術集会ふくおか大会の公募シンポジウムにて中間報告会を実施。各地区最低1名は参加のこと。⇒1名分の旅費・宿泊費は事務局より支出。参加費は各センター負担とする。可能な限り他の支援者の方も参加を依頼する。

学会終了後に事務局が中間報告会開催記録〈A4：10頁程度〉を作成する。

(6) 2023.2 中間報告書の作成

事務局が中間報告書を作成し、日本財団に提出&全児家セン協議会 HP にアップする。

※後日、全児家セン協議会の HP に掲載するため、支援対象者のプライバシーには十分配慮のこと。そのため報告書作成の際は各センターが最終チェックを行うこと。

(7) 2023.4～ 次年度（令和5年度）に向けた作業

今秋頃に最終決定するが、予定としては、

「事例検討会の継続」と「最終報告会の開催（於：JaSPCAN 学術集会滋賀大会）」を行い、この実績をもって「最終実績報告書」を作成する。

その他の成果物の作成案としては「(読み物的な)事例集」+「座談会レポート」+「斎藤氏、中村氏から当事者・支援者に向けたエール(留意)的レポート」等で構成される書籍の発行等も視野に置きたい。

上記(5)(6)(7)の内容を全員で確認した。

その他

① SOS子どもの村の松崎センター長から、昨年11月より同センターではヤングケアラー相談窓口を設けている。この窓口寄せられた相談を端緒に現在実施している自立支援や家族支援を事例検討会で話し合えるとよいと話がある。

② 斎藤氏からは当事者にも参加してもらいたいので検討していただきたいと話がある。今後どういうスキームで当事者の参画を依頼し、どのような役割を担ってもらうのか等を議論したうえで、本研究活動の中で、当事者の意見や想いが活かせるよう検討していきたいと会長が回答する。

④ 中村氏からは支援にあたっては世帯(家)を大事にしつつ、家族全体へのケアに目を向けてほしい。子ども自らが声を上げていくことも重要であるとの話があった。